

主催：お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」
比較日本学教育研究センター、女性リーダー育成プログラム 後援：リベラルアーツ

第10回 国際日本学シンポジウム

人類・食・文化

平成20年（2008）7月5日（土）

会場：お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201号室

午前の部 （10:30-12:30）

講演

1. フランソワーズ・サバン 氏

（日仏会館フランス学長、中国史）

食物、人間、そして神聖なるもの

2. マクシム・シュワルツ 氏

（パスツール研究所名誉所長・元フランス食品衛生安全庁、分子生物学）

農業害虫の生物的防除

—パスツールから遺伝子組み換え生物まで—

午後の部 （14:00-18:00）

～米と雑穀の日本文化～

1. シャルlotte・フォン・ヴェアシュア 氏（フランス国立高等研究院 教授）

古代天皇の毎日の食事と保存食

2. 香西 みどり 氏（お茶の水女子大学 教授）

日本の米と食文化

3. 増田 昭子 氏（立教大学 講師）

雑穀の社会史

パネルディスカッション

司会 村田容常、古瀬奈津子（お茶の水女子大学 教授）

茶話会（18:00-19:00） 奮ってご参加ください。

問合せ先：お茶の水女子大学 大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」事務局（JCS推進室）
開室時間：平日10:00-17:00 電話：03（5978）5504 E-mail：gsgp-jcs@cc.ocha.ac.jp

主催：お茶の水女子大学大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」
比較日本学教育研究センター、女性リーダー育成プログラム 後援：リベラルアーツ

第10回 国際日本学シンポジウム

源氏物語の千年 ～日本と欧米における源氏絵の旅～

平成20年（2008）7月6日（日）13:00-18:00
会場：お茶の水女子大学 共通講義棟2号館201号室

源氏物語千年紀に際し、このセッションでは物語にまつわる多様な絵（絵巻物、扇子絵、掛物、屏風、浮世絵、漫画）の歴史を通して、この世界屈指の傑作が時空を超えて旅した様を、比較研究的な視点から浮き彫りにする。様々な発表者が各自の研究を通して、その考察と日本、欧米における源氏絵に関する研究の現状を紹介する。

1. 清水 婦久子 氏

（帝塚山大学 教授）

源氏物語の絵画性

2. エステル・レジェリー＝ボエール氏

（フランス国立東洋言語文化研究院 INALCO 准教授）

フランスにおける源氏物語絵画の研究

3. 渡辺 雅子 氏

（メトロポリタン美術館アジア部門 主任研究員）

米国における源氏物語イメージの美術史的研究活動

4. 原山 絵美子 氏

（お茶の水女子大学大学院 博士後期課程）

『源氏物語』竹河巻の絵画化 —「あさきゆめみし」を出発点として—

パネルディスカッション

司会 平野由紀子（お茶の水女子大学 教授）

問合せ先：お茶の水女子大学 大学院教育改革支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」事務局（JCS推進室）
開室時間：平日10:00-17:00 電話：03（5978）5504 E-mail：gsgp-jcs@cc.ocha.ac.jp